

指導方法等の改善計画について (国語科)

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校67.4%, 県69.7%)

対県比 96.7%

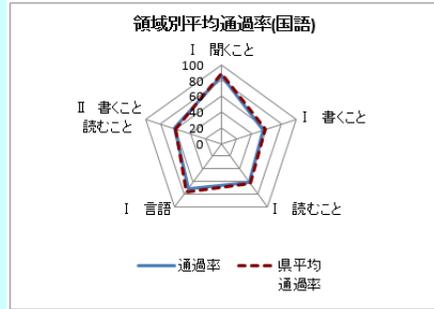
学力定着実態調査 本年度正答率

本校68.0%
全国64.8%

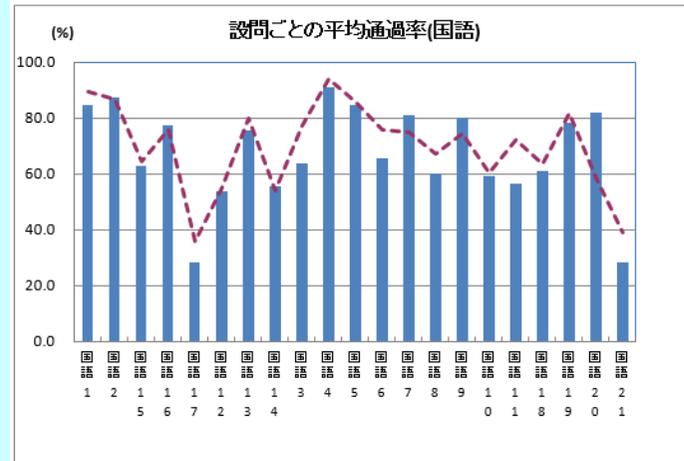
対全国比 105.0%

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題

本校 73.5 %
全国 75.6 %
県 76.6 %

B問題

本校 61.2 %
全国 66.5 %
県 67.9 %

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比

%

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(タイプI四3叙述の仕方の確認) (35.9% 無答率12.4%)

主語を補い、一文を二文に書き直す問題である。最も多かった誤答は、主語を補えていないというもので、条件を読んでいない生徒が多いことが課題である。

【課題2】(タイプII五2根拠に基づいた考えの記述) (38.9% 無答率12.7%)

金子みすゞの優しさを紹介する文章を書く問題である。必要な言葉の引用・共通点を挙げるという条件を満たしていないものが多い。【課題1】と同じく、問題文をきちんと読み、理解していない生徒が多いことが課題である。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(A9七1歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す) (71.4% 無答率7.5%)

全国80.2% 県81.8%である。無答率の多さは、歴史的仮名遣いがなんたるかを理解していないと考える。

【課題2】(B3三本や文章から必要な情報を読み取り根拠を明確にして自分の考えを書く)

(53.7% 無答率22.4%) 全国57.7% 県62.3%である。資料から正しく情報を取り出すことに課題があると考える。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値(60%) 実施後数値(%)

長い一文を、二文に分ける練習をするとともに、自分の書いた文章を添削する機会を設けることで、正しい文章を書けるように指導する。

【課題2】目標値(60%) 実施後数値(%)

条件を付けた課題作文を定期的に出題し、条件を守ることを意識させる。書いた作文が条件を守れているかどうか、相互で添削を行う機会を設ける。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値(80%) 実施後数値(%)

古典に親近感を持つ導入を仕組むとともに、音読の練習に重点を置く。そして基本的な歴史的仮名遣いについて練習問題で反復学習を行う

【課題2】目標値(60%) 実施後数値(%)

自分の考えを書く機会を増やし、書くことに慣れさせると同時に、資料を読み取り、根拠をともに書く授業を仕組む。

※今後の改善計画については別紙

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校66.1%, 県66.8%)

対県比 99.0%

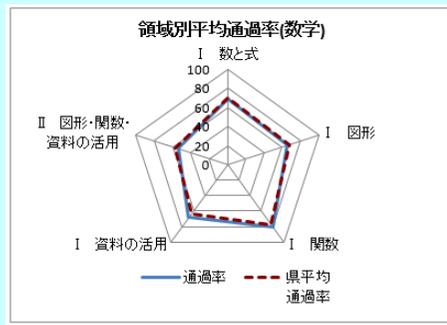
学力定着実態調査 本年度正答率

本校71.6%
全国71.9%

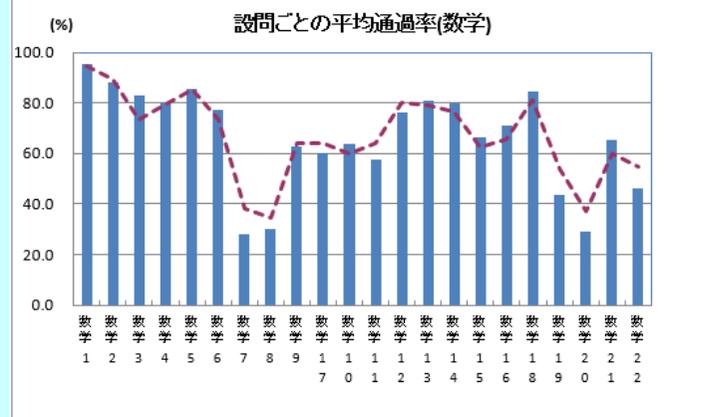
対全国比 99.6%

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題

本校 59.3 %
全国 62.2 %
県 62.1 %

B問題

本校 38.5 %
全国 44.1 %
県 44.8 %

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比

%

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(文字式の表し方)(平均通過率 28.2%)文字式の表し方の問題について、解答類型の最も多い誤答から、実際の長さ割合が混ざって考えてしまっていたことに課題があると考えられる。

【課題2】(事象の解釈と表現)(平均通過率 29.1%)事象の解釈と表現の問題について、解答類型の誤答の傾向から、速さと時間の関係については理解できているが、問題文ではなくグラフを直感的に読み取り、間違えてしまうことに課題があると考えられる。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(相対度数を求める式を書く)(平均通過率 17.7%)与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することに課題がある。

【課題2】(比例でyの増加量を求める)(平均通過率 23.1%)比例の式についてxの増加量に伴うyの増加量をもとめることに課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値(60%) 実施後数値(%)

文字式の表し方だけではなく、基本的な単位換算や割合の扱い方に慣れさせるために、単位換算や割合の反復練習を繰り返していく。

【課題2】目標値(60%) 実施後数値(%)

グラフから直感的に考えるのではなく、問題文を正確に読み取れるように、問題文を音読させたり、下線を引かせたりして、問題文の意味を読み取れるように繰り返し取り組む。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値(40%) 実施後数値(%) 相対度数の定義を理解し、実際のデータで相対度数を求める練習を行い、定着をはかる。

【課題2】目標値(40%) 実施後数値(%) 増加量の定義を理解し、変化の割合との違いを意識させながら問題演習を行う。

※今後の改善計画については別紙

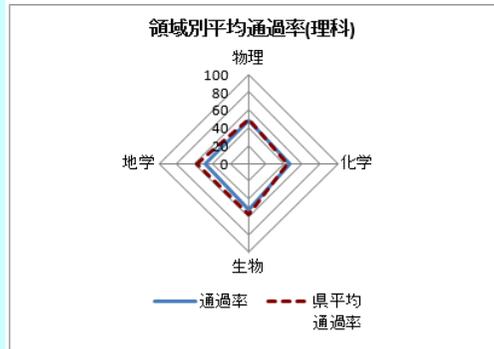
指導方法等の改善計画について [理科]

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校48.2%, 県 51.8%)

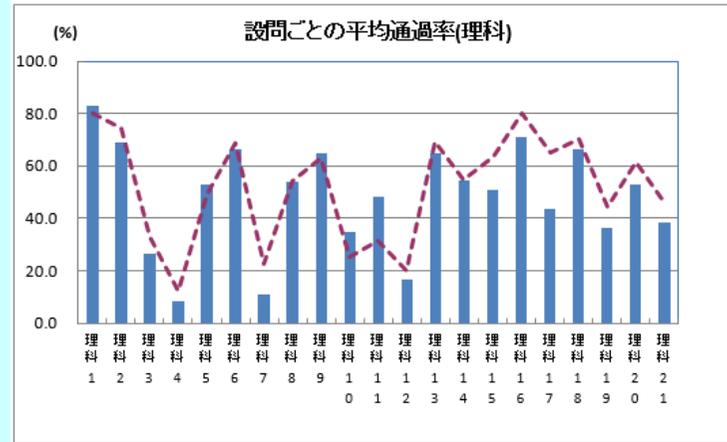
対県比 93.1%

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの通過率



- ・物理分野 本校の通過率 47.8% 県通過率 49.8%
力の表し方の問題 (8.2%) に課題があり, 2つの物体の間ではたらく力についての理解が不十分であった。
- ・科学分野 本校の通過率 46.4% 県通過率 44.1%
化学分野はおおむね県平均を上回っているが, 「溶解度」を使って再結晶の違いを説明する問題に課題があった
- ・生物分野 本校の通過率 51.5% 県通過率 57.4%
特に単子葉を判別する問題 (16.4%) において条件の整理ができなかった。
- ・地学分野 本校の通過率 47.5% 県通過率 57.4%
地震計の記録の読み方 (36.4%), 地層の重なり方 (38.2%) の理解に特に課題があった。

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(分野: 物理 力の表し方) 本校通過率 8.2%, 県通過率 12.2%
力を矢印で表すときに作用点の位置を的確に表現できていない。
「机がボールをささえる力」, 「〇〇が△△にはたらく力」のように2つの物体の間ではたらく力の理解が不十分である。

【課題2】(分野: 化学 溶質の再結晶) 本校通過率 10.9% 県通過率 22.6%
・「溶解度」「飽和水溶液」の語句を正しく理解できていない。
・再結晶の仕方について「溶解度」「飽和水溶液」の語句を使って説明できていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (50%) 実施後数値 () %
特に光や力の単元において, 目に見えないものを作図・モデルで思考することに抵抗感が強い。
基礎的な知識を確実に定着させる中で, 身近な現象を説明できるよう授業を工夫していく。

【課題2】目標値 (50%) 実施後数値 () %
理科の実験において, 仮説検証的な実験を行うことで, 生徒に科学的な思考の方法を身につけさせるとともに, 班活動における交流の時間を確保し, お互いの意見を交流することで思考の高まりを経験させる。
習得すべき語句を活用した実験レポートのまとめを書く指導を継続する。

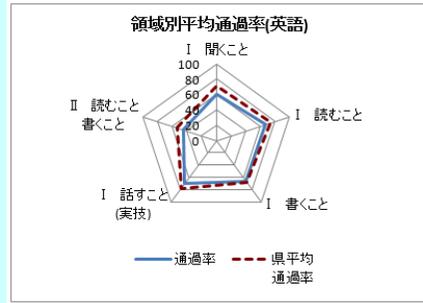
※今後の改善計画については別紙

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校62.3%, 県 71.5%)

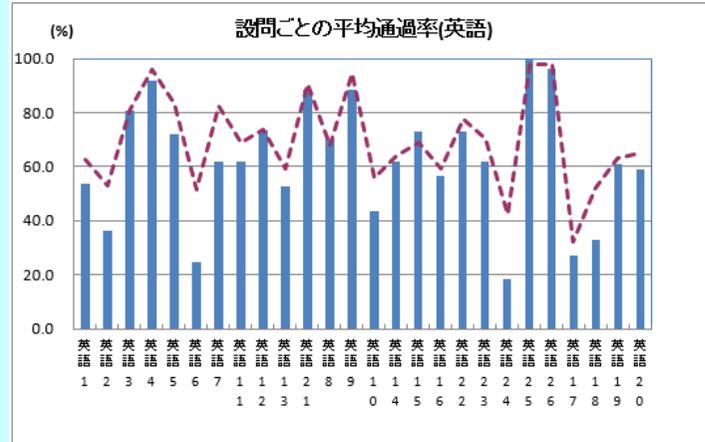
対県比 89.5 %

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



タイプ I の平均通過率は 65.4%，タイプ II の平均通過率は 45.0%であった。
 タイプ I の結果においては各領域とも問題によって通過率の差が極端である。例えばタイプ I 「話すこと」においては「Yes/No」疑問文の問いに答える設問では通過率 100%であるのに対し、「wh-」疑問文の問いに答える設問では通過率が 18.2%であった。このことから基本の定着について偏りがみられることがわかる。ドリル学習など苦手な分野への対策と同時に、全体的な基礎学力の定着を図っていく。

重点課題

基礎・基本」定着状況調査

【課題 1】(実技 3) (平均通過率 18.2 %)

現在進行形を使って絵の人物が何をしているか問われる設問に対し、47.3%の生徒が現在進行形の形で応答していない。また 22.7%の生徒は主語がない文や語順の異なる文で答えるなど、質問は理解できていても応答する力がついていない。

【課題 2】(リスニング問題 設問 4 2) (平均通過率 24.5 %)

人物のスケジュールを聞き取る設問において、大半が火曜日と木曜日を混同して答えている。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題 1】目標値 (50 %) 実施後数値 (%)

疑問詞を使った質問についての応答、現在進行形を使った文の定着が不十分なことから、授業での英語使用率をあげる。また疑問詞、現在進行形について繰り返し様々なパターンで練習させ、定着をはかる。

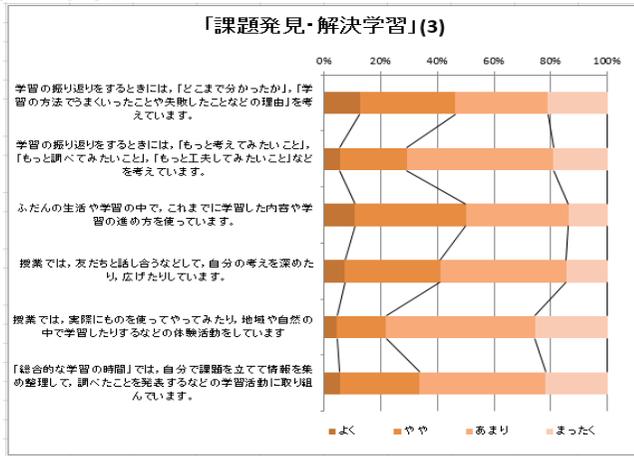
【課題 2】目標値 (60 %) 実施後数値 (%)

曜日について生徒自身が答えたり使ったりする機会を多く設ける。日記など曜日を意識し、使う活動に取り組む。

※今後の改善計画については別紙

質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査)

(1) 生活・学習

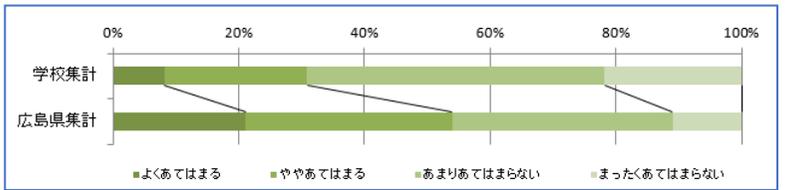


生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考慮しています。」の質問に肯定的な回答が、46.4%と過半数を割り込んでいる。	授業の振り返りを「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」のようにポイントを明確にして、まとめさせる。	2	70%	生徒アンケート	12月		

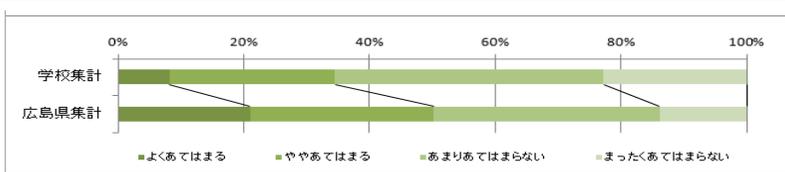
(2) 教科

国語の授業では、伝えたいことの中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。

数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。

	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「話の組み立てや中心を考えて話したり聞いたりしている」の肯定的評価が40.9%で、意識して人の話を聞いたり、聞きやすい話し方をしようと心がけたりしていない。	聞く時のポイントや、話す順番や話し方など、具体的な方法を身に付けさせるとともに、話し合いや発表をしたり、人の話を聞き取ったりする機会を増やしていく。	2	肯定的回答	アンケート			
数学	「解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。」の肯定的な回答が30.9%と他の質問と比較して低くなっている。	まずは、問題の解き方や考え方を、ノートに記述させる活動を取り入れ、記述したことを基に、話し合いの活動機会を増やしていく。	2	肯定的回答50%以上	アンケート			
理科	「理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。」の肯定的な回答が34.5%と低く、協同的な学習が意識されていない。	理科の実験において、仮説検証的な実験を行うことで、生徒に科学的な思考の方法を身につけさせるとともに、班活動における交流の時間を確保し、お互いの意見を交流することで思考の高まりを経験させる。	2	肯定的回答50%以上	アンケート			
英語	「英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。」の肯定的な回答が36.4%であり、英語が「使う」ものになっていない。	授業において生徒が英語で話す機会を増やす。習った表現を実際に活用し「学習する英語」だけでなく「使える英語」を意識させていく。	2	肯定的回答50%以上	アンケート			

